議事録

会議名	金属・セラミックス技術委員会	主催者：電気学会
日時	平成 26 年 7 月 22 日(火)15:00～17:00	場所：(社)電気学会　第 4 会議室
出席者	吉川(横国大)、木村(古河)、一瀬(電中研)、岩城(日立)、窪谷(東芝)、伴野(NIMS) 【敬称略】	

【配布資料】

1) 260722-1　前回（H26/4/25）議事録（案）
2) 260722-2　電気学会　金属・セラミックス技術委員会　名簿
3) 260722-3　平成 26 年度 金属・セラミックス技術委員会分掌
4) 260722-4　金属・セラミックス技術委員会 HP
5) 260722-5　金属・セラミックス技術委員会ポスター案
6) 260722-6　委員の追加について
7) 260722-7　平成 26 年度 金属・セラミックス技術委員会活動計画
8) 260722-8　第 5 回超電導材料若手研究交流会について
9) 260722-9-1~4　全国大会シンポジウムの開催について
10) 260722-10　調査専門委員会の成果報告形態について

【議事】

1. 前回議事録の確認
   - 資料 260722-1 に基づき前回議事録の確認を行い承認された。
   - 冒頭、特集号に関して意見が出された。
     a) 論文委員会（A 部門）では、積極的にインバイト論文を募集したいと考えている（一瀬委員）。
     b) 特集号に関する要件は論文編修委員会の承認が必要。
     c) インバイトでも出版費は必要だが、大学の先生には業績になる。
   - “超伝導”を“超電導”に修正。

2. 名簿の確認
   - 名簿の岩城委員の会員番号の頭に“a0”を付ける。

3. 平成 26 年度 金属・セラミックス技術委員会分掌
   - 吉川委員長より最終版が提示された。

4. 金属・セラミックス技術委員会 HP
   - 吉川委員長より資料 2600722-4 に基づき HP を更新した旨報告された。

5. 金属・セラミックス技術委員会ポスター案
   - 吉川委員長より作成されたポスター案の報告があった。

6. 委員の追加について
   - 日高睦夫氏（産総研）、水野克俊氏（鉄道総研）の 2 名の追加が承認された。本件については運営

員会にて報告される。

- A 部門に入っている人でさらに 1 名を勧誘する。

7. 平成 26 年度 金属・セラミックス技術委員会活動計画
   - 研究会について
     a) 若手研究交流会に関して木村幹事補佐よりコメントがあった。分野は広く、20 名ほどの参加がある。前回は東大、早稲田、上智、農工大から出席者があった。試しに横国大の学生を呼んではどうかとの提案があった。
     b) 通信学会研究会との連携は A 部門ではよくやっているようである。入稿フォーマットは 2 つあってもよい。ただし 1 つに統一するのに時間が必要であり、締切が 3 週間前から 1 か月前に早まる。
   - 特集号について
     a) エレクトロニクス分野で特集を組むことを検討中（吉川委員長）。
     b) 英文特集号を出せば A 部門の活動資金から 10 万円程度補助金が出るとのコメントがあった。
     c) インバイトで募集したいとの意見があった。
     d) 企画書の提出がある。タイムスケジュール的には特集号掲載の 1 年半前に提出。ただし 9 か月で出したということもあった。直近の編修委員会は 9 月なので平成 28 年 8 月掲載を目指すのが妥当か。
     e) ゲストエディタは藤巻委員に依頼する。
   - 全国大会、シンポジウムのテーマについて
     a) A 部門で 4 件の課題提案を行う。
     b) 新規調査専門委員会の立ち上げからシンポジウムに発展させるのか、シンポジウムから新規調査専門委員会の立ち上げを図るのか 2 つの意見があった。以前熱電材料で立ち上がりそうになったこともあった(一瀬委員)。
   - 新規調査専門委員会について
     a) 吉川委員長より超伝導センサ、デバイス関係で固めて立ち上げてはどうかとの意見が出された。会員 50%で開くことができる。継続の場合は 80%。
     b) テーマ案として、①低温工学・超電導学会で立ち上がっている材料系調査委員会のテーマ（伴野委員に様子を伺ってもらう）、②ディテクター関係（産総研の大久保氏に打診）、③下山委員が主催している未踏科学技術協会の新材料関係調査委員会のテーマはどうかとの意見が出された。
     c) 電気学会で立ち上げる調査委員会のメリット：調査内容をまとめ、報告書として出版することができる。

8. 調査専門委員会の成果報告形態について
   - 吉川委員長より資料 260722-10 に基づき A 部門研究調査運営員会で議論になった以下のことが報告された。
   - 専門委員会運営マニュアルには成果報告は技術報告以外の形態も取り扱われる旨明記されているが、部門共通・規定 1-2 第 8 条において規定されている内容から、成果報告として「技術報告書以外は認めるべきではない」とされてしまった経緯がある。

・ これを受けて運営委員会で覚書を作成することとなった:(a)技術報告以外に(b)技術報告単行本、(c')学会誌または部門誌の特集号に調査報告の内容を含む解説論文として掲載、(d')調査専門委員会の成果内容をまとめる形で総括研究会を開催、(e')全国大会または部門大会でシンポジウムを企画し調査報告内容をまとめて発表、(f)電気規格調査会テクニカルレポートも成果報告形態として認める旨が明記された。

9. 編修委員会から

・ 久保谷委員より特集号について説明があった。金セラ委員会から一件提案してほしい。2016 年頃の掲載を検討してほしい。
・ B 部門の超電導応用やマグネティクスとコラボすることも考えられるとの意見も出された。
・ スケジュールについて：12 月提案（企画書の提出）、2016 年 4〜9 月掲載。
・ ゲストエディタはとりあえず吉川委員長が担当することとなった。